

郷土館発

平和への願い

ラジオ放送で終戦を知った。
ホッとした気持ち。

今後どうなるか不安でした。
戦中戦後は食べ物が不足し
配給制もありました。

山菜は食べられる物は何でも
採って食べました。

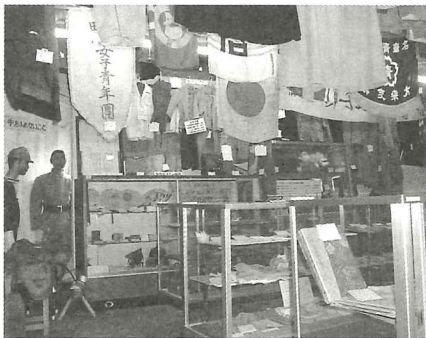
都会から疎開した人達はほ
つぼつ帰るようになりました。
戦争の被害、犠牲者など、
悔やみきれないことばかりで
す。

戦争の悲惨さを次の世代に
語り継がなければならぬと
思います。戦争のない平和な
暮らしを願ってやみません。

農家の馬は皆、徴発されま
した。大切な馬を連れて行か
れるのを見て、悲しくて泣き
ました。

馬まで犠牲になったのです。
今でも、思えば涙が出ます。

二十三歳 女性



銃後の生活を語る数々の資料



灯火管制 空襲に備え灯りが外にもれないようにした

これは、当時二十三歳で子育ての真つ最中だった方の「昭和二十年八月十五日」の記録です。

昨年の夏、町内小中学校の保護者の方々に「昭和二十年八月十五日」の記録を集めていただきました。四百人近くの方々が協力してくださいました。その記録集は七月中旬発刊予定です。

発刊にあわせて、八月七日（豊川海軍工廠空襲の日）から八月十五日までを、平和への願いを確かめ合う期間とし、郷土館を無料で開館します。

戦争に関わる資料を整理し、新しい企画でお待ちしています。平和の礎を語り合える機会になればと願っています。

（奥三河郷土館 館長

加藤 紘市）